



道北のまち、下川町の市街地端部に建つ木造平屋の住宅である。下川町は面積の90%を森林に覆われ、夏冬の寒暖差が60度を超える地域である。250坪の敷地は、廃線となった名寄本線の鉄道防風林に寄り添う様に広がる。郷土愛に厚い施主の思いや自然環境から、防風林を手掛かりに下川町の気候風土や地域文化に馴染んだ住宅をつくりたいと考えた。

かつての産業を支えた遺構への敬意を込め、防風林の連続する風景と呼応するよう水平への広がり意識した。さらに、防風林に寄り添い、しっかりと根付いた暮らしを実現したいという思いから、住宅を「コ」の字配置し、防風林と住宅で緩い囲み型を形成している。この配置により、市街地でありながら木立の中で暮らすような自然との一体感を生み、近隣への適度な距離感と中庭への開放感の両立を実現している。

地域住宅のモデルとすべく主要構造部には全て地域材を採用、内外装には下川のカラマツ材を積極的に活用している。厳しい冬の寒さに備えてQ値1.3、C値0.5を確保。暖房には薪ストーブを併用し、森林資源の活用とエネルギーの地域内循環を意識している。また、床下空間を活用した床下換気暖房方式を採用し、快適で温度むらの少ない室内環境を実現した。

この住宅は「森とイエ」プロジェクト※の第1作目にあたる。プロジェクトの立ち上げから5年、試行錯誤の中、「人」「気候風土」「素材」が紡ぐ、「シモカワ」ならではの住宅が出来たと考えている。

